

## 次期 長岡市過疎地域持続的発展計画（素案）に関するパブリックコメントの実施結果

### 1 概要

#### (1) 実施期間

令和7年12月15日（月曜日）から令和8年1月6日（火曜日）まで

#### (2) 実施の周知

- ・市ホームページへの掲載
- ・アオーレ長岡東棟1階市役所総合窓口、地域振興戦略部及び各支所地域振興・市民生活課への備付け
- ・やまこしコミュニティセンター、おぐにコミュニティセンター、わしまコミュニティセンター、寺泊コミュニティセンター、とちおコミュニティセンター及び川口コミュニティセンターへの備付け

#### (3) 意見提出者数

2人

#### (4) 意見件数

12件

### 2 寄せられたご意見と市の考え

No.	該当箇所	意見の概要	市の考え
1	全般	<p>人口データの出所について</p> <p>計画（素案）で使用されている人口の出所は国勢調査に依拠しています。何故、使用される数字が住民基本台帳人口ではなく、国勢調査によるのか、その理由を伺います。</p> <p>5年に一度の国勢調査を使用した場合、最新の数字でも5年前の令和2年（2020年）の数字になります。住民基本台帳人口を使用すればその月の数字で人口の推移や動向を分析することができます。数字の鮮度において差があります。（下記参照）</p>	<p>国勢調査人口は、住民基本台帳上の登録の有無にかかわらず、調査日時点に実際に住んでいる人を調査した人口で、行政の計画策定の基礎データとして欠かせないものです。本計画（素案）においては、住民基本台帳人口よりも調査日時点において実態に近い数値であるため、国勢調査人口を使用することを基本としています。</p>

		<table border="1"> <tr> <td></td> <td>令和2年国勢調査 (令和2年10月1日現在)</td> <td>住民基本台帳 (令和7年12月1日現在)</td> </tr> <tr> <td>長岡市人口</td> <td>266,936人</td> <td>252,527人</td> </tr> <tr> <td>過疎6地域人口</td> <td>38,448人</td> <td>34,013人</td> </tr> </table> <p>両者を比較すると、長岡市の人口においては△14,409人、過疎6地域の人口においては△4,435人と、その差は歴然としています。</p>		令和2年国勢調査 (令和2年10月1日現在)	住民基本台帳 (令和7年12月1日現在)	長岡市人口	266,936人	252,527人	過疎6地域人口	38,448人	34,013人	<p>しかしながら、ご指摘のように国勢調査は5年ごとに実施されるため、現時点では令和2年国勢調査が最新で、5年以上経過している数値であることから、必要に応じて令和2年国勢調査後の住民基本台帳人口も活用しながら計画策定を行っております。</p>
	令和2年国勢調査 (令和2年10月1日現在)	住民基本台帳 (令和7年12月1日現在)										
長岡市人口	266,936人	252,527人										
過疎6地域人口	38,448人	34,013人										
2	P 3	<p>川口地域の1行目 「活用」を「利活用」に修正</p>	<p>「活用」のままとします。 川を効果的に使っていることから「活用」が適していると考えます。</p>									
3	P 5	<p>川口地域の7行目 「地域ブランド」を「地域ブランド米」に修正</p>	<p>ご意見を反映します。</p>									
4	P 5	<p>川口地域の7行目 「の生産のほか」を「を生産するほか」に修正</p>	<p>「の生産のほか」のままとします。 後段の地消地産型農業とともに「・・・に取り組み」の対象を表すため、「の生産のほか」が適していると考えます。</p>									
5	P 6	<p>川口地域の説明文 文章の構成が他の地域と異なり、違和感を感じる</p>	<p>ご意見を反映します。 (人口の動向、これまでの過疎対策、今後の見通し等の順序で記載します。)</p>									
6	P 6	<p>川口地域の5行目 「令和2年の調査」を「令和2年までの5年間」に修正</p>	<p>ご意見を反映します。</p>									

7	P 6～7	<p>⑤社会経済的発展の方向と概要</p> <p>山古志地域、小国地域、寺泊地域、栃尾地域、川口地域の説明文      題目が計画のため、「なりません。」を「いきます。」もしくは「さらに〇〇していきます。」に修正</p>	<p>ご意見を反映します。</p> <p>(「図らなければなりません。」を「図っていきます。」に修正します。)</p>
8	P 7	<p>川口地域の5行目</p> <p>「インターチェンジと、」の「、」が不要</p>	<p>ご意見を反映します。</p>
9	P 8	<p>長岡市全域の説明文</p> <p>人口の推移を記載しているが、何を言いたいのか不明。      →e.g 「これから、県内?国内?に比べて長岡市は少子高齢化が顕著？」</p>	<p>ご意見を反映します。</p> <p>(図表の説明文等を記載します。)</p>
10	P 16、74	<p>関係人口について</p> <p>計画(素案)において、「関係人口」という言葉が登場するのはP16で、同種の「外部人材」はP74で使用されていますが、言葉自体は深堀されていません。</p> <p>人口減少・高齢化社会の底がいつになるか目途が立ちません。人口減少・高齢化のメカニズムは明確ですが、解決には気の遠くなるほどの時間を要します。私たちは、人口減少・高齢化社会に応じた社会づくり、地域づくりに取り組む必要があります。</p> <p>都市と農村(過疎地)との濃密な関係を通して展開される関係人口の活用は多くの識者からその意義が指摘され、関係書籍も多数出版されています。諦めと失望が支配する過疎集落にあって、希望と勇気をもたらす救世的存在です。</p> <p>是非、計画(素案)中、「10集落の整備」「②その対策」において関係</p>	<p>関係人口については、P16「2 移住・定住・地域間交流の促進、人材育成」の項において、記載しています。</p> <p>「10集落の整備」の項には記載はしませんが、集落機能を維持し、持続可能な地域づくりなどを推進するため、関係人口の創出・拡大に取り組んでいきます。</p> <p>なお、P16の(1)現況と問題点の中の、地域間交流・人材育成の記述を、一部修正します。</p>

		<p>人口の受入れについて、支援体制の確立を取り上げていただきたいと思 います。</p> <p>寺泊求草集落では2022年から関係人口を積極的に受け入れ、里山の再 生に取り組んでいます。住民との交流も活発に行い成果をあげています。 集落では関係人口のさらなる拡大を図る計画を検討しています。</p>	
11	P 7 3	<p>10 集落の整備 (1) 現況と問題点 (2) その対策 について</p> <p>(1)「現況と問題点」と(2)「その対策」との関係について伺います。</p> <p>人口減少・高齢化により、「現況と問題点」では“集落の維持と活力が 低下し、集落を担う人材不足が問題”とっています。しかし、「その対 策」でも“地域住民自らが地域活動に参画し地域づくりをしていくこと が重要”と記されています。</p> <p>集落の維持と活力が低下し人材不足が問題であることを指摘するなら ば、その対策においてはその解決策を示すべきではないでしょうか。対 策でも住民自らの参画では、(1)と(2)との関係において矛盾を感じます。</p> <p>同様のことが、(1)で“地域の今後の一層の発展のためには、人材の確 保、他地域との<u>連携</u>や交流の維持・拡大が課題”と指摘しており、(2)で も同様に“地域全体で活動する地域団体との<u>連携</u> (略)”を推進すると述 べています。</p> <p>「現況と問題点」と「その対策」との関係は、「現況と問題点」で指摘し た事柄に対して、「その対策」で解決策又は対策を示すべきであると思 います。双方が同様のことを述べるのでは対策にならないと思いますが、 いかがでしょうか。</p> <p>(1)の後半では、2つの地震後、集落の活性化や機能の再構築を図るた め住民が自発的に取り組んだことが長文で綴られています。「現況と問題</p>	<p>ご意見を反映します。</p> <p>((1) 現況と問題点で指摘した事項につい て、(2) その対策で(1)の現況と問題点を 踏まえて対策を示していることがわかりやす くなるように、(2) その対策の記述を見直し ます。)</p> <p>(1) 現況と問題点の後半部分、地震後の記 述については、地域住民の自主的・自発的な</p>

		<p>点」という場を考えると、なぜここでこのような長文を記す必要があるのでしょうか。</p> <p>また、「その対策」の2段落目の“また”から始まる文章は、対策としての文章としてはまとまりを欠いているように思います。ただ言葉が羅列されているに過ぎません。ご一考をお願いします。</p> <p>人口減少・高齢化の進展によって集落自体の存続が危ぶまれています。過疎地域の集落では、自助能力が徐々に奪われ、諦めと失望が支配する世界に突入することになります。農村集落の整備を図りながらどのようにして集落を維持していくかは、本計画において最も重要な課題であると思います。</p>	<p>活動が地域の活力向上に寄与した事例として記載しており、このことも踏まえて、(2)その対策において、地域住民自らが地域活動に参画することが重要であると記述しているものです。</p>
12	P 7 3	<p>過疎6地域の人口について</p> <p>P73で“過疎6地域の令和2年4月1日現在の状況は、人口40,287人(以下略)”と記されていますが、P9の「人口の推移(国勢調査)過疎地域の合算」では、平成2年度は38,448人になっています。</p> <p>40,287人の出所は令和2年4月1日現在とあるため、住民基本台帳人口と推測します。38,448人の出所は国勢調査であり調査時点は10月1日現在(「令和4年度長岡市統計年鑑」とされています。</p> <p>疑問①</p> <p>文書中、数字の出所は住民基本台帳と国勢調査が入り混じって使用されていると考えてよろしいでしょうか。</p> <p>疑問②</p> <p>調査時点に約半年の差があるとはいえ、1,839人もの差は大きすぎるように思いますが、間違いはないでしょうか。</p>	<p>疑問①について</p> <p>お見込のとおりです。</p> <p>(40,287人は住民基本台帳人口、38,448人は国勢調査人口です。)</p> <p>疑問②について</p> <p>間違いありません。</p> <p>(令和2年10月1日現在の住民基本台帳人口は39,847人で、国勢調査人口との差は1,399人です。)</p> <p>なお、令和2年4月1日現在の状況を、令和7年4月1日現在のデータに修正します。</p>